

平成21年度
プレスクール事業実施報告書

平成22年3月

愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室

はしがき

愛知県では、外国人の子どもが入学した公立小学校の学校生活に早期に適応できるようになることを目指し、平成18年度から、プレスクール（小学校入学前の外国人の子どもに対する初期の日本語指導・学校生活指導）をモデル事業として実施しています。

今年度は、これまでのモデル事業の成果を活かし、市町村等によるプレスクールの普及を図るため、モデル事業を実施していただいた市町村の担当者、モデル事業での指導者等に加え、外国人の子どもの教育環境、子どもの言語の発達、日本語教育、多文化共生教育などの関係分野の専門家の協力もいただきながら、プレスクールの実施のための手引きとして、「プレスクール実施マニュアル」（以下「マニュアル」という。）を作成しました。

今回のプレスクール事業（以下「本事業」という。）は、マニュアルを活用したプレスクールのモデル事業を実施することにより、マニュアルを活用したプレスクールの成果等について把握するとともに、マニュアルを活用してプレスクールを実施していくに当たっての課題の洗い出し、ノウハウの蓄積等を目的としております。

この報告書は、市町村の担当者の方を始め外国人の子どもの教育支援に携わる皆様にお読みいただき、取組の参考にしていただけるように作成いたしました。この地域の未来を担う外国人の子どもたちが健やかに成長できますよう、早期の取組をよろしくお願いいたします。

平成22年3月

愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室長

※この報告書は、愛知県地域振興部国際課多文化共生室（第1章・第3章）と平成21年度愛知県公立学校早期適応指導員の又野菜々子（第2章）が分担して執筆したものです。なお、文中に関係者の発言等を基にした記述がありますが、すべて執筆者の責任において要約・記述したものです。

第1章 プレスクール事業の経緯・概略〔愛知県多文化共生推進室〕

1. 事業の趣旨・目的

本事業は、平成21年10月に作成した「プレスクール実施マニュアル」（以下「マニュアル」という。）を活用したプレスクールをモデル的に実施することにより、マニュアルを活用したプレスクールの成果等について把握するとともに、マニュアルを活用してプレスクールを実施していくに当たっての課題の抽出、ノウハウの蓄積等を図るために行うものである。

2. 実施地域の外国人の状況

東浦町の外国人登録者数は1,445人（平成21年12月末日時点）で、主な国籍は、ブラジル（864人）、フィリピン（184人）、中国（137人）となっており、町の人口49,551人（平成22年1月1日時点）に占める外国人の割合は約2.9%となっている。

また、小学校に在籍する外国籍の児童の人数は86人（平成21年5月1日時点）で、外国籍児童の割合は、約2.6%となっている。なお、町内の小学校の外国籍児童は、石浜西小学校に集中しており、その殆どがブラジルを始めとする南米の国籍者という状況にある。

3. 実施体制（各関係者の役割）

本事業は、愛知県多文化共生推進室が、東浦町と連携して、愛知教育大学の協力を受けながら、実施するものであり、各関係者の主な役割は、次のとおりである。

①愛知県多文化共生推進室

- ・事業の進行管理、関係者の調整
- ・指導者（公立学校早期適応指導員。以下「講師」という。）、教材、事務用品等の確保

②東浦町

教育委員会

- ・東浦町の各関係者の調整・取りまとめ
- ・プレスクール対象者の調査、対象者への案内状作成

石浜西小学校

- ・外国人児童・小学校に関する情報の提供
- ・プレスクールにおける小学校見学等への協力

石浜西保育園・児童課

- ・プレスクールの実施会場等の提供
- ・プレスクール参加者の保護者への連絡等

③愛知教育大学

- ・本事業におけるプレスクールの評価・分析

4. プレスクールの指導者

(1) 講師の募集

愛知県多文化共生推進室が、以下の条件で講師の公募（愛知県ウェブページ、JICAウェブページ等）を行い、一次（履歴書・作文）・二次（面接）の選考の上で講師を決定し、委嘱した。

① 応募要件

- ・日本語指導の専門教育を受けている、又は外国人の子どもへ日本語指導・適応指導の経験（1年程度）を有すること。
- ・ポルトガル語を母語とする子ども及びその保護者とポルトガル語でのコミュニケーションが可能であること。

② 謝礼・交通費

- ・1日（7時間）あたり19,600円の謝金
- ・愛知県の規程による額の交通費

③ 期間

- ・平成21年11月5日頃～平成22年3月末頃までの間（年末・年始を除く）の原則として平日4日／週、合計70日程度。

(2) 講師の経歴等

平成19年3月

大学（日本語教育コース）卒業

平成19年7月～平成21年7月

JICAの日系社会青年ボランティアとして、ブラジル国（エスピリサント州ヴィトリア市）のヴィトリア日本語モデル校において、日本語教師を務める。

平成21年9月～

文部科学省「虹の架け橋教室」（定住外国人の子どもの就学支援事業）愛知教育大学主催豊明日本語教室にて補助講師を務める。

(3) 講師の活動拠点等

プレスクールの実施会場が石浜西保育園であったこと、同保育園においては講師の執務用の机・椅子、事務機器等が利用できること、指導の時間以外にもプレススクールに参加する子どもの様子をみることができることなどから、同保育園を講師の活動拠点とした。

5. プレスクールの対象者・参加者

本事業では、新年度に小学校入学予定であって、外国籍であるか又は外国の文化的背景を持つ子どもを対象にすることとした。

東浦町教育委員会において、対象となる子どもを調査したところ、全員が石浜西保育園の在籍園児であったことから、同保育園を通じて対象者の保護者にプレスクールの案内を行ったところ、対象者の全員が参加することとなった。（プレスクールに子どもを参加させることについて疑問等を示す保護者はなかった。）

参加者は、10名（当初11名であったが1名が町外へ転居）で、母語についてはポルトガル語が7名、その他の言語が3名であった。

なお、幼稚園・保育園・託児所のいずれにも通っていない不就園の子どもについては、石浜西小学校・石浜西保育園の通訳者への聞き取り等も行ったが、見いだされなかった。

6. プレスクールの実施会場

参加者全員が石浜西保育園の在籍園児であったこと、同保育園の2階に空き教室があって、プレスクールの会場として専用的に利用することが可能であったこと、指導中に他の園児との接触がない場所で指導に集中できる環境にあること、子ども用の机・椅子、黒板等も揃っていたことなどから、石浜西保育園の2階の空き教室を会場とすることとした。

7. プレスクールの開催スケジュール（主に講師の活動日程）

- 11月5日(木) 愛知県・講師・東浦町（教育委員会・石浜西小学校・石浜西保育園）の打合せ（実施体制、スケジュール等）
- 11月6日(金) マニュアルの検討会議委員からのマニュアルに関するレクチャー、市町村向けマニュアル説明会への参加
- 11月9日(月) 知立市早期適応教室見学、講師経験者からのアドバイス
- 11月10日(火) 参加者の様子のお見学・参加者の担当保育士からの聞き取り
- 11月11日(水)～17日(火) 語彙調査、指導方法検討・教材準備等、石浜西小学校見学・担当教員からの聞き取り
- 11月13日(金) 愛知県・講師・東浦町の打合せ（プレスクールの時間割等）
- 11月18日(水) プレスクール開始（3月12日まで合計59日間開催）
- 11月20日(金) 文部科学省初等中等教育局国際教育課による視察・ヒアリング
- 1月18日(月) 現地見学・意見交換会の開催
- 3月12日(金) プレスクール終了
- 3月15日(月) 成果報告会の開催
- 3月16日(火)～23日(火) 報告書作成等

第2章 プレスクール（日本語指導・学校生活指導）の内容

[又野菜々子（平成21年度愛知県公立学校早期適応指導員）]

1. 指導の準備

1-1、研修

- ・マニュアルのレクチャー
- ・マニュアル説明会参加

1-2、関係者からの聞き取り

- ・講師経験者からの聞き取り

1-3、情報収集

- 1-3-1、調査票（保護者からの調査票と、担当保育士からの調査票）
- 1-3-2、実際の園児の観察（給食の時間に入り込み）
- 1-3-3、語彙テスト（100問語彙テストを日本語・母語で行い、何人かにはOBCテストを行った）

1-4、指導計画書作成

1-4-1、クラス編成

- ・園児をクラスに振り分けるにあたっては、理解力・語彙力・相性の三点を基準に考えた
- ・時間割については、保育園としての活動の妨げにならないように、小学校の授業時間に合わせて、1時限40～45分の授業時間とした。

13:00～13:20（個人指導）	A、C
13:30～14:10	D、E、F、G
15:00～15:45	H、I、J、K
16:00～	補講など

1-4-2、到達目標

- ・今回は対象者が全員日本の保育園に通っている現状から、生活指導の基礎はできていると判断した。なので、今回のプレスクールの目標・意義は、彼らが小学校での生活に一日も早く適応できるようにすることだと考えた。具体的な目標として、
 - ・学ぶ習慣を付ける（授業時間内は座って授業に参加できるようにする）
 - ・遊びの時間との区別を付ける
 - ・小学校での習慣を身につける
 - ・小学校で使われる語彙を覚える

1-5、カリキュラムの考え方

設定した目標に到達するために、大切にしたのはスモールステップである。突然困難な活動を始めるのではなく、最初は小さな約束を一つだけ意識するような活動をして、それができたらもう一つ約束を、それができたら…と繰り返していくことで、子どもたちが達成感を味わいながら、難しい活動にも馴染んでいけるよう工夫した。

2. 指導の内容

プレスクール指導マニュアル P40～52 を参考に、すでにできている部分は省略し、必要と思ったものを組み込みながら、スモールステップを積み上げて到達していくよう配慮した。

そのため、時期ごとに到達目標を設け、指導や活動が変わっていった。

※各項目の後ろの () 内は、プレスクール指導マニュアルのページ数と、そのページにおける番号

	学校生活指導	読み書き指導（日本語指導）	算数指導
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ (P40-1) ・座る (P40-3) ・集団生活でのルール 教室での指示語 (P40-6) 教室でのルール ・気持ちを表す (P43-10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字に興味を持つ (P49 - 2) あいうえおの歌 ・文字を書く準備 鉛筆を正しく持つ (P49-8) 線を書く・迷路 ・語彙を増やす 身体の部位・動物の語彙 	<ul style="list-style-type: none"> ・数える (P52-7) 日本語で1～10まで言える 具体物を数える ・数字 (P52-8) 1～10までの数字が読める 1～10までの数字が書ける
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの貸し借り (P42-7) ・約束や決まりを守ることを学ぶ (例：他の子の話を聞く、順番を守る など) ・体のこと (P43-9) 身体の部位の名前が言える 自分の体調を説明できる ・気持ちを表す (P43-10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字に興味を持つ (P49) あいうえおの歌をさまざまなパターンで歌ってみる ・絵本の読み聞かせ (P49-1) ・さまざまな遊びを通して、日本語の音韻に慣れる (P49-2) ・語彙を増やす 身体の部位・動物・色・文房具 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字 (P52-8) 1～10までの数字が読める 1～10までの数字が書ける

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挙手の方法 正しく手をあげることができる ・ 指名されたときのみ発言する ・ 他の子の話聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書かれた自分の名前がわかる (P49-5) ・ 名前を書く (P49-9) ・ ひらがなの形の認識 (P49-5) ・ ひらがな単音の読み (P49-6) ・ ひらがな一文字の書き (P49-10) (あ・か・さ行) ・ 語彙を増やす 家族・果物・野菜 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分類 (P51-1) 上位概念と下位概念がわかる ・ 暦 (P51-6) ・ 数える (P52-7) 日本語で 11 ~ 30 まで言える
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室での指示語 (P42-6) 日直をつくって、子どもたちに号令をかけてもらう ・ お手伝い (P44-12) 日直の仕事として片付け ・ 教室でのルールを覚えるとともに、子どもたち同士で話し合っってルールを決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな遊びを通して、日本語の音韻に慣れる (P49-2) リズムに乗ってあいうえおを言っていく ・ ひらがなの形の認識 (P49-5) ・ ひらがな単音の読み (P49-6) ・ ひらがな一文字の書き (P49-10) (た・な・は・ま・や・ら行) ・ ひらがなことばの読み (P49-7) ・ 語彙を増やす (小学校の文房具・動詞・形容詞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分類 (P51-1) ・ 形 (P51-2) ・ 比較 (P51-3) ・ 位置 (P51-4)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ もちもの (P41-5) 筆箱を持ってくる 小学校の持ち物の確認 ・ お手伝い (P44-12) 日直の仕事として黒板消し ・ 小学校見学 実際の小学校の教室を使って授業をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひらがなの形の認識 (P49-5) ・ ひらがな単音の読み (P49-6) ・ ひらがな一文字の書き (P49-10) (わ・を・ん) ・ ひらがなことばの読み (P49-7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対応 (P51-5) ・ 簡単な足し算

※指導するにあたって、プレスクール実施マニュアルの活動例を多く活用した

2-1 指導の進め方について

上記の表では、学校生活指導・読み書き指導・算数指導はわかれて記述してあるが、実際はそれぞれを分別して教えることはなく（実際不可能だと思われる）、同時に指導していくことが多かった。

実際の指導案を例に、指導の進め方について記述する。

なお、教案中の《初期》《後期》は、指導初期のやり方と指導後期のやり方を表し、◎は学校生活指導での留意点、◇は読み書き指導（日本語指導）での留意点、△は算数指導での留意点を表す。

※指導中期の45分授業

時間 (分)	指導内容	指導の留意点	使用教材
※	・授業の準備 トイレに行って、自分のファイルを用意して、机で待つ	◎今回の子どもたちはトイレは問題なくできるが、確認も兼ねて習慣づけていた。また、授業中にトイレに立つと集中力が途切れるため、あらかじめ行っておくよう習慣づけた。	
0	・授業始まりの挨拶	◎小学校の挨拶と同じように行う 《初期》講師が号令をかける 《後期》日直を作って号令を頼む	・マイク
1	・点呼 名前を呼んで返事をする 「元気ですか」と聞く	◎《初期》マイクを使い、マイクを向けられた時だけ発言することを徹底する。 《後期》マイクをなくす。 ・子どもたちのその日の様子を確認する (体調・気分など)	
2	・日付の確認 カレンダーの今日の日付にシールを貼る 「○月○日のところに、○色のシールを一つだけ貼ってください」	△わからない子どもには板書をして数字を確認してから、日付を確認させる。 ◇シールを何枚か渡して色を選ばせることで、色名の確認も兼ねる。	・カレンダー ・シール
5	・今日の授業内容の確認 「今日のお勉強は 1、———です。 2、———です。……」 指折りながら指導内容を一つずつ確認する	△数字の確認も兼ねる。 ◎後で「次のお勉強は何ですか」と聞くこともあり、人の話をきちんと聞く練習にもなる。	

6	<p>・既習語彙の復習 子どもたちにカードを配り、 「<u>上位語</u>のカードは何ですか」 「〇〇ちゃんの<u>上位語</u>のカードは何ですか」と聞く</p>	<p>《初期》講師がマイクを向けて、一人一人のカードを聞く。 《後期》◎挙手で発表させる。 ◇語彙がある程度増えたところで、上位語・下位語の確認を兼ねて行う。何枚か配られたカードの中から、「動物」のカードを探し出したり、「野菜」のカードを探し出したりして、発表する。 ◎後から他の子の言った答えを聞くことで、他の子の発言にも注意しなければならない。</p>	<p>・語彙カード (既習語彙の分類ごとに人数分に分けておく)</p>
10	<p>・あいうえおの歌 童謡「ももたろう」のメロディで五十音を歌う</p>	<p>◇一行ずつ歌ったり、グループに分かれて歌ったり、さまざまなバリエーションがある。また、「ゆっくり」「速く」「大きな声で」などの語彙を導入するきっかけにもなる。</p>	<p>・ピアノ ・五十音表</p>
12	<p>・語彙練習 カードを使って新しい語彙を覚える</p>	<p>◇《初期》フラッシュ式でカードを見せて練習 《後期》簡単な質問を交える (例:野菜カードの練習では「何色ですか」「好きですか」「今日、食べましたか」など)</p>	<p>・語彙カード</p>
17	<p>・ひらがな指導 ①形の確認のパズル ②書く練習(プリント)</p>	<p>※同じひらがな指導でも、違った活動(5~10分)を組み合わせで行う ◎パズルをするときは、ものの貸し借りのルールを指導する。その時、冗長にルールをしゃべるのではなく、短い言葉で簡単に言い切る必要がある。「約束が二つあります」などの言葉を添えると、子どもたちが意識しやすく覚えやすい。《初期》講師が主にルールを決めて説明 《後期》子ども同士で話し合ってルールを決める ◎《初期》講師が一枚ずつ手渡しで配る 《後期》「一枚とってまわしてください」という指示のみで配る ◇正しい鉛筆の持ち方から、線をなぞること</p>	<p>・ひらがなパズル ・ひらがなカード ・鉛筆 ・プリント など</p>

		<p>などの練習を経て、ひらがな練習をする。鉛筆を持つ時は「正しい持ち方・正しい姿勢・お口はチャック」という注意を合言葉のように繰り返して定着させた。</p> <p>◇わざと崩れたひらがなを示して、「どうしてカッコ悪いですか」と聞くことで、子どもたちからの自発的な発話を促す。また、自分が書いたひらがなのどこがおかしいかを気づけるようになる。</p> <p>◇語頭音の気づき(「あ のつくもの」など)や、既習ひらがなのみで構成されたひらがな言葉カードを見せて、これまで学習してきたひらがな全ての練習をする</p>	
40	<p>③言葉の中のひらがな</p> <p>・ごほうびを受け取る プリントをファイルに綴じて、九分割された絵(ごほうびパズル)を一枚もらう。</p>	<p>△1～9まで書かれたマス目の順番通りにもらうので、子どもたちは今日は何番をもらうのか数字を確認して、講師に「○番ください」と言ってもらう。</p> <p>◎ノリを使う練習でもある。</p>	<p>・ごほうびパズル ・ノリ</p>
44	<p>・授業終わりの挨拶</p>	<p>◎小学校の挨拶と同じように行う</p>	<p>・マイク</p>
※	<p>・授業の片づけ ファイルをロッカーにしまつて、黒板を消す</p>	<p>◎《後期》日直の仕事として、黒板消しや教材の片づけを頼んだ。また、机の位置にするしを付けて、正しい位置に戻すことも指導した。</p>	

・全体を通じて、指示語はできるだけ短い言葉で、何度も繰り返して使うことで定着を図った。また、話をするときにはあらかじめ、「話が三つあります」など前置いて、指折りながら話をした。

2-2 指導中の言語について

授業中は日本語のみを使用した。これは日本の小学校での生活に適応させるためのプレスクールという観点から、日本語のみでの授業が望ましいと判断したからである。

日本語というわからない言葉を使って説明が行われた後で、母語による説明があることが習慣になってしまうと、子どもたちはそれを期待して、日本語を理解・学習しようという意欲をなくしてしまう恐れがある。また、わからないから

とって安易に説明してしまうと、説明ばかりの授業になってしまう恐れもあった。さらに、今回のプレスクールでは、クラス編成で母語が違う子ども同士が一緒になっているためでもある。

子どもたちにとってわからない言葉が出てきた時も、その言葉を意味のあるやり取りの中で使用することによって、子どもたちは言葉を理解することができていた。しかし、子どもと1対1で話すときには、子どもの状況（例：喧嘩の仲裁など、心のケアに関するとき）によって母語（ポルトガル語）を使って話すこともあった。ポルトガル語で話すときは、「これから違う言葉を使う」ことをしっかりと認識させるため、さまざまな工夫（例：ポルトガル語を使うときは眼鏡を外して対応する）をした。

2-3 学校見学について

指導後期の3月2日（火）に、石浜西小学校の協力を得て、小学校見学を行った。当初の予定では、小学校の机といすを使って授業をすることと、校内見学をすることが大きな目的だったが、石浜西保育園の年長園児全員と行うことになったので、机の数が足りないことや騒がしくなってしまうことを考慮して、空き教室を使って短い授業をさせていただきただけにとどめた。短い時間ではあったが、小学校の中を見て歩くことや実際の教室を見ることで、小学校に入学すると言う実感を得て、強く意識するようになった。

3. 活動の成果

3-1 語彙テストの結果

指導の準備として日本語・母語の両方で行った語彙テストを、プレスクール終了時にも行った結果を比較する。

児童	日本語での調査 開始時(11月)	日本語での調査 終了時(3月)	伸び数	母語での調査 開始時(11月)	母語での調査 終了時(3月)	伸び数
1	28	39	11	-	-	-
2	57	81	24	81	86	5
3	58	98	40	86	86	0
4	61	80	19	90	86	-4
5	62	88	26	84	85	1
6	84	100	16	87	89	2
7	87	100	13	86	82	-4
8	91	98	7	85	86	

9	91	99	8	-	-	-
10	95	100	5	82	84	2

・全体として、「ふでばこ」は誰もわからず、小学校で使うもの＝身近になく馴染みのない言葉はまだわからなかった。また、他の語彙でも「うし」「ふね」「かわ」など、子どもたちの身近にないものはわからない語彙だった。

・11月調査の段階で、85点以上の子どもにはOBCテストも実施した。

①部屋の絵を見せて、そこにあるものを聞くテスト

②病室の絵を見せて、どうして病室と判断したかを聞くテスト、

③交通ルールを守っていない子どもが、どうしていけないか（理由）・どうすればいいか（改良）・このあとどうなるか（結果を推察）を聞くテスト

④四枚の絵を見せて、それらをつなげてお話を作るテスト

これらのテストの結果、開始時には単語のみや短い文章のみで答えていたが、終了時には長めの文章を使って答えられるようになった。さらに、講師が問いかけや相槌の中で使った言葉を利用して文章を作るなど、語彙力だけではなく文章を作る力も向上していると感じた。

3-2 会話と普段の様子の変化

語彙テストの問題には、

①好きな食べ物と嫌いな食べ物は何ですか。

②友達の名前を教えてください。また、友達と何をして遊びますか。

③今日、朝起きてから何をしましたか。

という、会話を伴うテストがあり、それらの質問に対する答えや、普段の会話での変化を比較する。

また、授業の中での様子・姿勢の変化も比較する。

児童	開始時(11月)の様子	終了時(3月)の様子
A	日本語よりも母語の方が強く、日常会話の中でも母語に頼る割合が大きい。日本語で細かなやり取りをするのが難しい。指示の言葉を理解するのが難しく、周囲と母語で確認を取りながら行動することが多い。	語彙数が増えた他、わからない言葉を言い換えを使って何とか表現しようとする姿勢が見られるようになった。自分がわかる言葉については、「おれわかる!」「簡単!」と言いながら、いろいろと補足説明をつける場面もある。五十音表の並びも理解して、それを手掛かりにして言葉を読むこともできる。複数人数のクラスで勉強することが少なかったため、順番を守ったり他の子の活動を待つことは苦手の様子。

C	<p>わからないときには黙り込んでしまう傾向がある。指示を聞きとることも難しく、復唱していることが多い。また、手足の力が弱く、ハサミや鉛筆を細かく使うことは難しい。</p>	<p>発話がかなり増えた。「正解」「違う」という言葉を使って、自分の大まかな意思を伝えたり、わからないときには「わからない」と言って説明を待ったりするようになった。簡単な言葉での指示は聞き取れるが、繰り返し丁寧に指導しないと行動に移すのは難しい。五十音表の並びは理解したが、音と文字の結びつきはまだよくわからない様子。鉛筆は大分上手に使えるようになったが、強く線を書くのは難しい。</p>
D	<p>日本語力が非常に高く、細かい状況を説明することもできる。語彙も多いが、小学校で使う語彙でわからないものが少しある。</p>	<p>学習することにかなり慣れることができた。また、学習意欲が非常に高い。授業の始まる時間を自分で考えて、間に合うように教室に来ることができるようになった他、教室での行動が身に付いた。</p>
E	<p>質問に対して、単語のみで答えることが多い。文章を組み立てて答えたり説明したりすることは難しい。指示もよく理解して、落ち着いた行動ができる。</p>	<p>質問に対して、単語のみではなく、文章を組み立てて答えることが多くなった。自分がわかることに対しては、補足説明を付けるなど、発話量が全体として多くなった。</p>
F	<p>話すことが好きで、会話量も非常に多いが、細かいところで言い間違いが多い。授業中、じっとしていることができなくて、自分がしたいことを見つけたり、つまらないと思ったらすぐに席を立ってしまう。ふざけることも多い。</p>	<p>会話量は変わらず多いが、順序立てた話し方をするようになった。また、語彙や言い回しも増えて、大人びた話し方をするようになったと感じる。授業態度も、集中している時間が長続きするようになり、他の子どもたちに注意をすることも多い。クラスのリーダーになりたいので、頑張ることが多かった。</p>
G	<p>日本語よりも母語が強いので、会話の中で母語に頼ることが多い。日本語で話すのが難しいので、あきらめてしまうこともある。非常にマイペースで、周囲から遅れていても気にしない。</p>	<p>語彙も発話も増えて、伝えようと努力する姿が見られるようになった。五十音表の並びを覚えて、それを使って言葉を読むことができるようになった。作業などをゆっくりと丁寧にやりすぎる傾向はあるが、周囲を見て急ぐこともできるようになった。</p>
H	<p>活発で発話も多い。日本語力も高く、語彙も多いが、細かいところで言い間違いが多かったり、小学校で使うものの語彙が抜けていたり</p>	<p>学習意欲が高く、新しいことを覚えるのが好きな様子。ひらがなの並び順・書き方を覚えて、言葉も読めるようになった。授業に対する姿勢もまじめで、覚えたことを積極的に話</p>

	する。授業中は、自分が好きなことのみをやりがり、つまらないと判断するとすぐにふざけ始めてしまう。	したがったり、説明を求めたり、勉強することを楽しむようになった。
I	日本語より母語が強く、会話の中で母語に頼ることが多い。はしゃぐことが多く、指示を理解せず(もしくは理解しても聞かずに)、授業から逃げていってしまうこともある。	語彙が増えて、発話量も増えたと感じる。日常会話でも単語のみで答えるだけではなく、自分なりに言葉をつなげて話を広げるようになった。五十音表の並び順を覚えて、表を見ながら言葉を読むことができるようになった。授業に集中してもらえる時間も長くなり、注意されれば授業に戻ってくるようになった。
J	語彙は多く、会話をするには問題ないように思えるが、状況や物事を説明するのは難しい。自分がしたいことを押し通すことがあり、それができないと拗ねて動かなくなってしまうことがある。	語彙が増えて、発話も多く豊かになった。理由や状況を説明するのが上手くなり、自分でも伝わるのが楽しくて喋るのが楽しそうな様子。説明も集中して聴ける時間が長くなり、他の子に説明してあげる姿も見られるようになった。
K	語彙が少なく、説明をすることは難しい。わからないときは黙り込んでしまって、あきらめてしまっている様子。大人しくて、授業には静かに参加している。	語彙が非常に増えて、説明できることがぐんと広がった。自分でも言葉には注意しているようで、間違った言い回しをした後で自発的に訂正することも増えた。学習意欲が非常に高く、授業をして新しいことを学んでいくのが大好きな様子。ひらがなも全て覚えて、すらすらと読めるようになった。

- ・子どもたちとの会話の中では、実施マニュアルの活動のヒント1「ことばかけのヒント」(p133)を参考に、質問に対して単語のみ(一語文)で話すときは、できるだけそこから広げていくように促した。子どもたちが「言わなくても先生はわかるだろう」と省略した部分でも、わざとわからないふりをして、おかしい付け足しをすることで(例:子どもが「先生、紙」と言ったとき、「紙は何ですか。食べたいですか」ということで、「紙をください」という発話を促すなど)、子どもたちの発話量が増えて、的確な言い回しができるようになったと感じる。

4. 反省と課題

4-1 今年度のプレスクールの環境

今年度のプレスクールは、

- ①対象児童全員が保育園に通っている
- ②保育経験豊富な保育士さんが常に近くにいる
- ③通訳を担当してくださる母語話者がいる
- ④子ども用の机・椅子が用意され、ロッカーなどを完備した教室を使うことができた
- ⑤子どもたちが入学する予定の小学校が近くにある

などの、非常に恵まれた環境下でのプレスクールになった。①、②、③により、プレスクール講師は日本語指導・算数指導に専念できる他、子どもたちへの接し方で困ったときにはすぐにアドバイスを求めることができた。また、③によって子どもが母語を使う環境が確保されていることも大きかった。今回のプレスクールは、本当に恵まれた環境で行うことができたと感じている。

4-2 指導中の指導者と関係者の関わり

この指導中、指導日誌（参加した子ども・指導内容・使用教材・子どもたちの様子など）を、一週間ごとに石浜西保育園・石浜西小学校・東浦町学校教育課・東浦町児童課・愛知県多文化共生推進室に提出して、ご意見などいただいた。

また、保護者との関わりとして、一か月ごとに、それまで学習したプリントとともに、指導内容を手紙にして（日本語・ポルトガル語）ファイルに綴じ込み、家に持ち帰って保護者に見せるように子どもたちに指示した。また、前半終了時には保護者へのコメントを書いて手紙を渡し、幾名かの保護者からコメントをいただいた。これは、すでに石浜西保育園とその保護者との間で、手紙のやり取りが定着していたため、非常にやりやすく効率的だった

通常の授業中に、保育士の先生方の見学があった他、小学校見学のときは子どもたちを引率してもらうなど、万全の協力体制のもとで授業をすることができた。

4-3 小学校への報告

プレスクール終了時に石浜西小学校へ報告を行った。プレスクールで指導したことにより子どもたちがすでに身に付けたことと、子どもたちの授業での様子を報告することで、小学校に入学してからの指導の一助にさせていただけるのではないかと思う。

4-4 日本人児童との関わり

保育園へ入り込みをしてプレスクールを行う中で、日本人児童との関わりは欠かせないものだった。子どもたちからは、何度も「どうして外国人児童だけが勉強をするのか」と聞かれた。その都度、「みんなのお父さんたちは日本の学校で勉強したことがあるが、外国人児童のお父さんたちは日本の学校では勉強をしたこ

とがない。だから、みんなが困った時はお父さんに聞けるが、外国人児童たちは聞くことができない。なので、今教えている」と説明した。もともと外国人児童との関わり合いが深い子どもたちは、その子たちを変に特別扱いすることもなかったが、完全に同一というわけでもないことを理解して、多様な背景を持つ人がいることを学ぶことができたと思う。

4-5 保護者からのコメント

- ・プレスクールが始まってから、子どもが保育園に行くのをより楽しみにするようになった。
 - ・子どもがたくさんのことを学び、母に教えてくれるようになった。努力して、たくさんのお話してくれるようになり、とても嬉しい。
 - ・家でも楽しんで勉強している様子が見られ、とても嬉しい。
 - ・プレスクールが始まってから、子どもが日本語を読むこと・書くことにとっても興味を示すようになった。読み書きだけでなく、他のさまざまなことにも大きな影響があったと感じる。
- この他、もっと早くからやってほしかった、今後もずっと続いてほしいという意見をいただいた。

5. まとめ

プレスクール開始時から比べると、どの子どもたちも語彙が増えて発話量も増えたと感じる。また、わからない言葉があっても言い換えなどを使って、こちらに伝えようとする姿勢が見られるようになった。授業中の態度も大きく成長して、今では子ども同士で注意しあって授業を進めることもある。当初に設定した到達目標については、全て達成できたと言えるだろう。

一方で、まだまだ不十分な部分は感じている。特に、今回の子どもたちは終了時に行った語彙テストで満点を取るなど、「これならば完璧か」と思わせる部分もあるかもしれないが、では日本人の子どもたちと全く同じ扱いをしていいとは思えない。生活言語と学習言語は同じではないため、小学校に入学してからも子どもたちは新しい言葉を覚え続ける必要があり、そこには適切なケアが必要である。また、日本語ばかりでなく、母語も大切にしていかなければ、将来的に彼らのアイデンティティに関わる問題になってしまう。

そこで必要なのは、関係者が一致協力して彼らの成長を見守り、助けていくことだと考える。ならばプレスクール講師としての自分にできることは、このプレスクール中に得た彼らの情報を関係者と共有し、適切なケア・指導とは何なのかを考える材料としていただくことだろう。小学校での学習の一部をすでに知っていて、学習することを知っていることは、子どもたちにとって大きな自信になり、学校側には負担の軽減となることで、よりよい指導・学習をする手助けになっていけば幸いだと思う。

6 使用教材

- ・語彙調査カード 100
 - ・豊橋市作成 語彙カード（動物・体・家族・食べ物・文房具・教室の中・小学校）
 - ・くもん式ひらがなカード
 - ・くもん やさい・くだものカード
 - ・くもん 反対ことばカード
 - ・くもんの幼児図鑑カード 動物
 - ・『やさしいめいろ 1集』 くもん出版
 - ・『やさしいひらがな 2集』 くもん出版
 - ・『かず（3歳）』 GAKKEN
 - ・『かず（5歳）』 GAKKEN
 - ・こぐま 絵カード 100
 - ・こぐま きおくカード
 - ・『どうぶつ もようで かくれんぼ』
 - ・『くだもの いろいろ かくれんぼ』
 - ・『のりもの いろいろ かくれんぼ』
 - ・ひらがなパズル
 - ・数字パズル
 - ・人物絵カード
 - ・天候カード
 - ・五十音表（一文字一文字カードになっていて、磁石で黒板に貼りつける）
- その他、過去のプレスクール講師が作成した教材多数

第3章 今後に向けての取組 [愛知県多文化共生推進室]

1. 現地見学・意見交換会

プレスクールについて知ってもらうとともに、プレスクールの普及に向けた意見交換を行うため、愛知県多文化共生推進室、東浦町、愛知教育大学のほか、愛知県の関係課（子育て支援課・義務教育課）、市町村の関係課（多文化共生担当課・保育担当課・学校教育担当課等）、マニュアルの検討会議委員等の参加を得て、現地見学・意見交換会を開催した。

(1) 日時・場所

平成22年1月18日(月)

現地見学会 午後1時30分～午後2時15分 石浜西保育園

意見交換会 午後2時30分～午後3時30分 石浜西小学校

(2) 参加者

愛知県（多文化共生推進室・子育て支援課・義務教育課）5名、東浦町（教育委員会・石浜西小学校・児童課・石浜西保育園・企画課）8名、愛知教育大学（外国人児童生徒支援リソースルーム）2名、マニュアル検討会議委員等2名、市町村10名

2. 成果報告会

プレスクールの実施状況等について関係者の情報共有を図るとともに、今後の進め方についての意見交換等を行うため、成果報告会を開催した。

(1) 日時・場所

平成22年3月15日(月) 午後2時～午後4時 石浜西小学校

(2) 参加者

愛知県多文化共生推進室3名・東浦町（教育委員会・石浜西小学校・児童課・石浜西保育園）5名・愛知教育大学（外国人児童生徒支援リソースルーム）2名、マニュアル検討会議委員2名

(3) 今後の取組

愛知県では、本事業をもとに、マニュアルを活用したプレスクールの成果の的確な把握、マニュアルを活用したプレスクールの実施方法など、市町村による事業化のために必要な検討を行うための検討会議を開催することとしている。

(4) 参考事項

中日新聞（平成21年12月21日知多版・平成22年1月18日県内版）で紹介
中京テレビ「リアルタイム」（平成21年11月20日放送）で紹介
知多メディアネットワーク「media s エリアニュース」

「みんなで一緒に楽しく過ごすために」（平成21年11月25日放送）で紹介
「外国人の子どもの支援考える」（平成22年1月19日放送）で紹介